

## 健康づくりの豆知識



### 『保湿剤の種類と特徴』

前回、全身疾患や治療、服用薬剤の副作用、加齢などにより唾液の量が減ることがあり、唾液の量を増やすためには唾液腺マッサージが有効というお話をしました。今回はお口の中の症状で、**乾燥してヒリヒリする、粘膜が荒れる、口内炎ができる**などの症状に有効な**保湿剤**についてご紹介します。

	 ジェルタイプ	 スプレータイプ	 マウスリンスタイプ
特徴	保湿効果が高い 持続性がある	即効性がある 外出先での使用に便利	うがい可能な方向け 希釈するタイプもある
適した口腔乾燥状態	中～重度	軽度	軽度
誤嚥リスク	低い	高い	高い
保湿効果時間	長時間	短時間	短時間
注意点	厚く塗布すると餅状になることも	粒子が細かいため、ムセや誤嚥に注意	エタノール含有は、口腔乾燥を助長する恐れあり
	湿持続力があるので、寝る前や乾燥が強い方にオススメ	即効性もあり携帯性に優れるので、外出時に使用したい方にオススメ	希釈する手間やうがいをする必要があるため、自分で管理ができる方にオススメ

★このようにさまざまな種類や特徴があるので、選ぶ際に悩んだらかかりつけ歯科医に相談しましょう。

監修：歯科衛生士 保刈麻里

# つなぐ。

さいちゅう  
レター

特集

## 治験のおはなし

治験の取り組み  
について  
治験管理室より  
ご紹介いたします



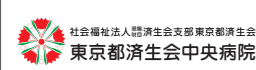
皆様の「心」を  
済生の「心」に生かす

「なでしこ基金」へのご寄付ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

令和6年10月～令和6年12月

### なでしこ 基金

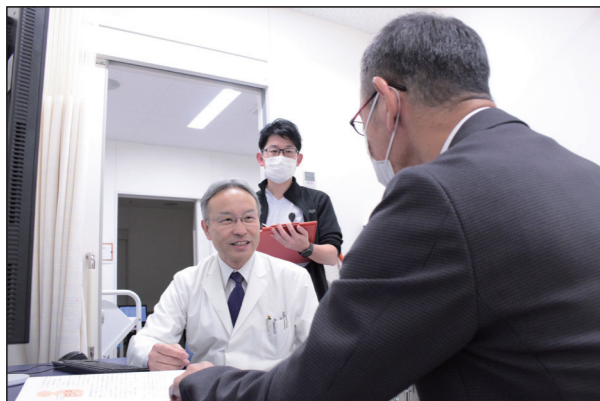
- ・藤原 静雄様、博子様 100万円
- ・六島 覚様 25万円
- ・岩崎 利晴様 10万円
- ・増田 和江様 5万円
- ・匿名 600万円
- ・匿名 10万円
- ・匿名 5万円
- ・匿名 2万円
- ・匿名 1万円
- ・募金箱 57,325円



## 特集

# 治験のおはなし

新しく開発された薬や医療機器、デバイスは必ず治験のプロセスを経てから医療現場で使用されますが、そのために不可欠なのが患者さんの協力です。当院では臨床研究センター内の「治験管理室」が中心となりさまざまな治験を実施することで、医療の進歩に貢献し、将来、より多くの患者さんを救えることをめざしています。ネガティブな印象も多い治験ですが、当院の取り組みを知っていたら、少しでも身近に感じていただければ幸いです。



### 治験ってなに？

**新しい薬や医療機器の安全性・有効性を確認  
あなたの参加が医療の進歩へつながることも**

治験とは、新しい薬や医療機器、デバイスなどを開発するにあたり、安全に有効に使えるかを確認することで、これらが承認され医療現場で使用されるためには必ず必要なプロセスとなります。基本的には製薬会社を中心とする企業から医療機関に依頼があり、医師が適応のある患者さんにお声をかけ、同意を得てから開始することになります。治験は第I相、第II相、第III相に分かれていて、第I相で健康な成人に対する安全性を確認した後、第II相、第III相で実際に病気に罹患する方に対する有効性や安全性などを調べていきます。被験者にはまだ世の中に出回っていない治療を受けていただくため、医師、看護師、薬剤師、治験コーディネーターなどさまざまな職種が多角的に患者さんをサポートしていきます。



臨床研究センター センター長  
**高橋 寿由樹**  
Takahashi Toshiyuki

### 治験はどんなふうが始まるの？

**同意を経て、検査で基準を満たせば治験開始  
入院や通院での服薬などスタイルはさまざま**

一般の方が治験の情報を入手する手段は限られているため、当院の場合は、医師が診察の中で「こんな治療もあります」とご提案し、入院患者さんを対象にした治験であれば入院中の患者さんにお声がけしてご参加いただくことが多いです。外来ではポスターなどを使用して広報もしていますので、そちらからご相談をいただくことも一定数あります。まず医師とコーディネーターが分担して説明をし、同意していただけたら、あらかじめ決められたスケジュールに沿って検査や診察を受けていただきます。安全上問題がないとされる基準を満たした方は、新しい薬や医療機器を使って治療を開始します。手術が必要な治験は入院が必須となりますが、通院しながらご自宅でお薬を飲んでいただくものもあります。



臨床研究センター 主任  
**亀田 高寛**  
Kameda Takahiro

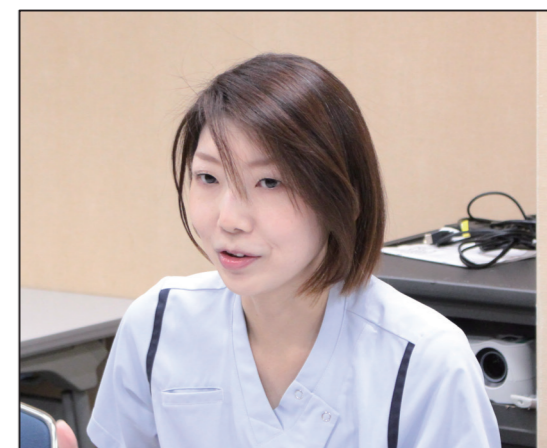


看護部 係長  
**井川 浩美**  
Igawa Hiromi

### ここがいい！ さいちゅうの治験

**総合病院としての強みは職種を超えた総合力  
将来への期待が大きい治験の依頼も多数**

当院は総合病院であり高度な医療も展開していますが、そのベースにあるのは標準的な医療をきちんとできる体制です。医師・スタッフともに垣根が非常に低く、患者さんのために職種を超えて協力する風土があります。また、立地も良く通いやすいことも患者さんにとってのメリットだと思います。当院のみならず済生会全体で治験に注力していることから、将来、国際的に役立つかもしれない治験の依頼も増えてきました。治験を行う病院はそれなりの労力と質が求められますが、当院は順調に実績も積み上げています。主治医からお声がけがあった際には、ぜひお話だけでも聞いてみてください。



臨床研究センター  
**井上 芙美**  
Inoue Fumi

### やっぱり気になる安全性

**段階を経て基本的な安全性を担保の上で実施  
コーディネーターや看護師が不安を和らげる**

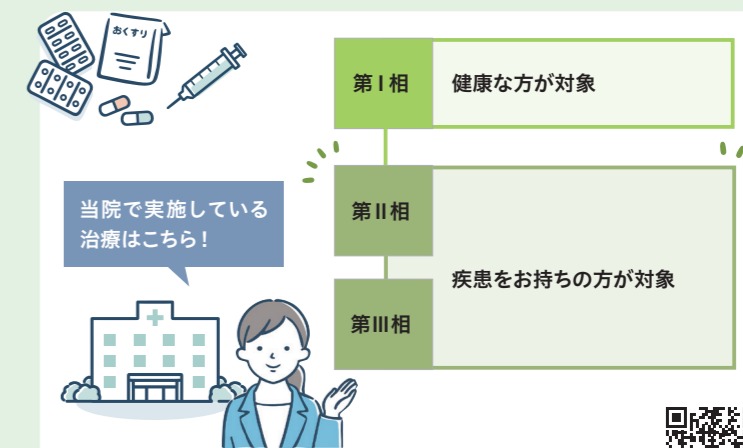
安全性については第I相、第II相である程度確認されていることが多く、基本的には最終判断をする第III相では安全性がほぼ確立されています。しかし未承認の薬に不安を抱くのは当然のこと。そこでコーディネーターや看護師が、患者さんと適切な距離を保ちながらも患者さんの不安を取り除き、スムーズに治療を進められるように対応しています。コーディネーターは直通の電話番号をお渡しし、対応可能な時間帯であれば、不安なときや困ったときに連絡が取れるようにしたり、看護師は既存の薬を使うとき以上に丁寧に説明して患者さんのお話を聞くなど不安に寄り添っていきます。また、治験は患者さんの意思で途中でも同意を撤回し中止することも可能なので、まずは不安な気持ちをお伝えいただければと思います。

### COLUMN

#### 第I相の治験はアルバイト?! 第II相、第III相とは大きな違いが

求人サイトで「治験バイト」という項目を目にした方もいるのではないのでしょうか。前述のとおり、治験には3段階あり、治験バイトは、健康な方を対象に安全性を調べる第I相の治験に参加し報酬を受け取るもので、正しくは新薬を世に出す過程での有償のボランティアになります。当院をはじめ医療機関で行う第II相、第III相の治験は、実際に病気にかかっている方を対象にしたものでまったく別のものになります。

お問い合わせ ▶ E-mail: chiken@saichu.jp



現在参加募集中の治験はこちら▶

